

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決できる力を育む教育を実践する学校をめざす。
 1 急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。
 2 自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人間の育成をめざす。
 3 生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にす意識の醸成に努める。

2 中期的目標

今後の3年間で、普通科総合選択制の集大成と総合学科へのスタートと捉え、以下の5点を学校の中期的目標とする。

- 1 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。
 - (1) 授業力向上委員会を設置して、学校全体でめざす授業を明確化し、「主体的で対話的な深い学び」を実践するため、アクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業に関する情報を共有し活用する。
 - (2) 学校経営推進費を活用してHR教室にプロジェクタを設置し、学校全体でICT機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。
 - (3) 授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。
 ※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」(平成29年度64.6%)を毎年3%引き上げて、2020年度には75%以上にす。
- 2 夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。
 - (1) 新たに整備するガイダンスルームを有効に活用して、「10年後の自分」を考えさせる。
 - (2) 総合的な学習の時間やLHR等で系統的なキャリア教育を実践し、本物や最先端に触れさせる。
 - (3) 進学講習に積極的に取り組ませる体制を充実させ、希望する進路の実現をめざす。
 ※進路希望実現率(平成29年度85.5%)を毎年2%ずつ引き上げて、2020年度には90%以上にす。
 ※難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者(平成29年度8名)を2020年度には20名以上をめざす。
- 3 基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を育成するため、生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長を図る。
 - (1) 基本的な生活習慣やマナー指導について、生徒指導部、学年、進路指導部が一体となって取り組む。
 - (2) 自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、HRや委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。
 - (3) 部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。
 - (4) 地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。
 ※年間遅刻者数(平成29年度2105)を毎年5%ずつ減少させ、2020年度には1500以下にする。
 ※生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」(平成29年度89.2%)を2020年度には90%以上にす。
 ※部活動加入率(平成29年度49.5%)を毎年3%ずつ引き上げて、2020年度には60%以上にす。
- 4 多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育や特別支援教育のさらなる充実を図る。
 - (1) SNSなどの新たな状況にも対応した高校3年間を通した人権教育を推進する。
 - (2) 特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。
 - (3) 知的障がい生徒自立支援コース設置校として取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。
 ※生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」(平成29年度80.4%)を毎年2%引き上げて、2020年度には85%以上にす。
- 5 総合学科改編に全教職員で取り組み、魅力ある総合学科づくりを進めていく。
 - (1) 高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編制を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。
 - (2) パンフレット作りや学校説明会など、広報活動を活性化させる。
 ※2019年度入試以降の志願倍率1.1倍以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
[生徒] 20項目中13項目で肯定率が上昇した。肯定率75%以上の項目は、「進路実現に関する指導は適切」(88)、「学校生活は充実」(86)、「各教科から必要な課題や宿題が与えられている」(83)、「人権の大切さについて学ぶ機会」(83)、「生徒たちの関係はとてもよい」(81)、「行事やHRには皆が楽しく参加」(80)、「いじめなどへの真剣な対応」(80)、「授業以外でも学習機会を提供」(80)、「この学校に来てよかった」(78)、「命の大切さについて学ぶ機会」(78)、「工夫されている授業が多い」(76)、「この学校の先生は信頼できる」(76)などであった。3ポイント以上上昇したのは「工夫されている授業が多い」(+5.5)、「部活動に積極的に参加している」(+5.2)、「いじめなどへの真剣な対応」(+4.7)、「進路実現に関する指導は適切」(+3.9)、「各教科から必要な課題や宿題が与えられている」(+3.1)の5項目であった。肯定率が6割以下の低い項目は「授業以外の学習時間は1日1時間以上」(29)、「部活動には積極的に参加」(55)など2項目で、下降したのは「この学校に来てよかった」(-8.9)、「この学校には他の学校にない特色がある」(-6.7)、「学校生活は充実」(-2.8)、「先生の指導は納得できる」(-2.5)、「学校行事やHR活動に楽しく参加」(-2.2)、「先生は	[第1回] 6月29日 ○H30年度学校経営計画について ・学校教育自己診断の結果から「楽しくてわかりやすい授業」が課題である。 ・教員全体で「めざす授業について」考えるため、授業力向上委員会が中心となってパッケージ研修を企画し成果を上げてほしい。 ・進路指導については、進学実績を上げるための工夫がほしい。 ・新設されるガイダンスルームを有効活用してほしい。 ・学年主任会議を新設し、学年間や学校全体の情報共有を行うことは大切である。 ・部活動入部率の向上は良い。ぜひ頑張してほしい。 ・人権教育・支援教育の充実については、ユニバーサルデザインのわかりやすい授業実践に期待する。 ○学校経営推進費について ・学校経営推進費の支援校に決定し、HR教室にプロジェクタが設置されるのは素晴らしい。 ○総合学科への再編整備について

府立枚方なぎさ高等学校

悩みや相談にいていねいに対応」(-0.5)、「少人数・習熟度別選択授業は充実」(-0.2)の7項目であった。生徒は楽しく学校生活を送っており、H29に比べて授業に対する評価は高まったが、家庭学習など学習習慣の定着や部活動への参加に依然として課題がある。

〔保護者〕

18項目中10項目で肯定率が上昇した。肯定率75%以上の項目は「保護者が授業や行事を参観できる機会を設けている」(94)、「保護者に対する事務室の対応は親切、丁寧」(94)、「家庭では生徒とよく会話をする」(90)、「家庭への連絡は適切」(87)、「人権尊重の教育を積極的に行っている」(85)、「教育情報についての公開・提供の努力をしている」(84)、「進路実現の取組みをしっかりとやっている」(84)、「各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている」(84)、「特色ある教育活動に取り組んでいる」(83)、「生徒は学校へ行くのを楽しみにしている」(82)、「生活指導をしっかりとやっている」(81)、「生徒たちはしっかりと授業を受けている」(78)、「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(78)、「生徒たちは部活動や行事などの課外活動に積極的である」(78)の14項目である。肯定率が5割以下の低い項目は「生徒たちは家庭学習に十分な時間を使っている」(33)である。大きく上昇したのは「生徒たちはしっかりと授業を受けている」(+13.7)、「各教科からは必要な量の課題や宿題が与えられている」(+8.8)、下降したのは「学校へ行くのを楽しみにしている」(-5.6)、「教育情報についての公開・提供の努力をしている」(-4.6)、などである。保護者はおおむね学校の取組に信頼を寄せているようであるが、楽しくてわかりやすい授業の実践や家庭学習の定着などに課題がある。また保護者の提出率は44%(H29は38.4%)と低く、保護者への呼びかけ等を強化して、提出率を上げることも今後の大きな課題である。

〔教職員〕

20項目中、肯定率90%以上が10項目、80%以上が5項目、70%以上が2項目と非常に肯定感が高い。特に、今年度、部活動活性化に力を入れた結果、「本校は部活動活性化について工夫している」は82.0%となり、34.6%増加した。また、「教職員と生徒との間には信頼関係がある」の90.0%、「少人数・習熟度別選択授業は効果をあげている」の84.0%も肯定率が10%以上増加した。肯定率が70%未満なのは、「総合的な学習の時間を充実させるよう工夫している」68.0%、「授業で自宅学習を促すような指導を工夫して行っている」62.0%、「授業で必要な量の宿題を課している」62.0%の3項目である。家庭学習をさせるための工夫や生徒の自主性を伸ばすような活動に課題がある。

・魅力ある総合学科づくりは今年度最大の課題であり、広報活動を頑張っ、志願倍率の高い人気校になってほしい。

[第2回](11/9)

○授業見学について

- ・電子黒板機能付プロジェクタを活用した授業はわかりやすい。
- ・授業規律の確立が大切である。
- ・体育の授業は活気があり良かった。
- ・障がいのある生徒への支援が行き届いている。

○H30年度学校経営計画の進捗状況について

- ・授業力向上委員会の取組みやパッケージ研修の実施などを通して、「わかりやすく楽しい授業」をめざしてほしい。
- ・電子黒板機能付プロジェクタを有効に活用して、ユニバーサルデザインの授業を実践してほしい。
- ・「授業のねらい、ふりかえり」を全教員で実践してほしい。
- ・進学講習や勉強合宿など、進学実績を上げるための工夫がほしい。
- ・キャリアサポート室を有効に活用してほしい。
- ・遅刻の減少良い。ここからさらに減らすことが大変。頑張っしてほしい。
- ・部活動の入部率の向上良い。部活動を活性化してほしい。
- ・学年連携会議の設置などで、情報共有をしっかりと行うことは大切である。
- ・自立支援コースは新しい設備を活用して、ユニバーサルデザインのわかりやすい授業実践をしてほしい。

○総合学科改編への取組みについて

- ・広報活動を頑張っ、志願倍率の高い人気校になってほしい。
- ・総合学科のカリキュラムや新しい設備等を活用して、確かな学力や進路を保障するために、どのように生徒を育てていくのか。教職員全体のコンセンサスを作る必要がある。

[第3回](2/22)

○平成30年度学校教育自己診断の結果についての説明

- ・生徒では、工夫されている授業や部活動への参加が5%以上増加した。
- ・「この学校に来てよかった」が減少しているが、これは1年生の生徒指導が厳しいのが反映している。
- ・保護者は提出率が44.0%と昨年度から5.6%増加した。

○平成30年度学校経営計画の評価(案)についての説明

- ・教員の授業力向上についての評価は高く、とても良い。
- ・進路指導に関しては難関大学への進学を伸ばす必要がある。
- ・生徒指導では、遅刻がかなり減ったので、さらに頑張っしてほしい。
- ・人権教育・特別支援教育については、サポート校としての取組みをさらに進めてほしい。

○平成31年度学校経営計画(案)についての説明

- ・主な改訂ポイントである働き方改革への取組み、リーダーシップ研修の実施、生活看護実習室などの新しい設備の活用、新学習指導要領に向けた議論の開始などについて説明を行い、平成31年度学校経営計画(案)承認を受けた。

○総合学科への再編整備についての説明

- ・新しい施設の有効活用、授業における「なぎさスタンダード」の確立、組織的・系統的な進学講習の実施、生徒会によるリーダーシップ研修の実施などを進めていく。

○質疑応答・意見交換

- ・授業力向上委員会を中心に、「わかりやすく楽しい授業」をめざしてほしい。
- ・教室環境のユニバーサルデザイン化や授業における「なぎさスタンダード」の確立は素晴らしい。進めてほしい。
- ・進路指導部が中心となって組織的・系統的な進学講習を実施してほしい。
- ・キャリアサポート室を有効に活用してほしい。
- ・生徒指導をさらに徹底してほしい。
- ・部活動をさらに活性化してほしい。
- ・自立支援コースは生活看護実習室を有効に活用してほしい。
- ・広報活動を工夫するなど、情報発信を頑張っしてほしい。
- ・教職員には授業力と生徒指導力を高めてほしい。

府立枚方なぎさ高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価（数字は12月末現在）
確かな学力育成のための教員の授業力の向上	<p>(1) 授業力向上委員会の設置とめざす授業の全体化</p> <p>(2) 学校経営推進費を活用したHR教室へのプロジェクタの設置と活用</p> <p>(3) 研究授業や教員同士の授業観察の活性化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業力向上委員会を定期的を開催し、アクティブラーニング等に関する情報を共有し活用する。</p> <p>イ 府教育センターのパッケージ研修を活用し、学校全体でめざす授業の共有化を図る。</p> <p>(2) モデル授業者によるICT機器を活用した研究授業と研究協議の実践</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケートの振り返りシートを教員全員が提出する。</p> <p>イ 全体の研究授業を年間3回行うとともに、授業観察シートを教員全員が提出する。</p> <p>ウ 近隣中学校との授業交流をすすめる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「$\textcircled{学}$いろいろ工夫されている授業が多い」3%増加 (H29 70.6%)</p> <p>イ 「$\textcircled{学}$楽しくて、わかりやすい授業が多い」3%増加 (H29 64.6%)</p> <p>(2) ICT機器活用に関する教職員研修実施2回以上 (H29 0回)</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケート学校全体の平均値3.1以上 (H29 3.08)</p> <p>イ 全体の研究授業5回以上 (H29 4回)</p> <p>ウ 近隣の中学校との授業交流の増加15人以上 (H29 11人)</p>	<p>$\textcircled{学}$は生徒向け学校教育自己診断</p> <p>(1)</p> <p>ア 「$\textcircled{学}$授業の工夫」は76.0% (5.4%増) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>イ 「$\textcircled{学}$楽しくてわかりやすい授業」は67.2% (2.6%増) ($\textcircled{○}$)</p> <p>(2) ICT機器に関する研修はパッケージ研修1回、ICT機器の活用研修2回、授業力向上委員会の自主的研修会3回の計6回実施 (H29 0回) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケート学校全体の平均値3.21 (H29 3.08) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>イ 全体の研究授業5回 (H29 4回) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>ウ 近隣の中学校との授業交流の増加33人 (H29 11人) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>●「確かな学力」をつけるために、授業力向上委員会の取り組みを充実させ、教員の授業力のさらなる向上を図っていく必要がある。</p>
キャリアデザイン力育成のための進路指導の充実	<p>(1) 新たなガイダンスルームの整備と有効活用</p> <p>(2) 進路実現に向けた本物・最先端に触れる活動の充実</p> <p>(3) 進学講習の充実による希望する進路の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア ガイダンスルームを進路指導やHRで有効に活用する。</p> <p>イ 3年間トータルの系統的なキャリア教育の策定</p> <p>(2)</p> <p>ア キャリア教育にかかる「LC」「LHR」やエリア活動、「卒業生に聞く」「TRYOUT」等の進路実現に向けた活動を充実させる。</p> <p>イ 新たな大学連携先を開拓するとともに、アカデミックインターンシップを実施する。</p> <p>ウ 英検等、各種検定の受験、資格取得の促進</p> <p>(3)</p> <p>ア 進学講習を効率的に開催し、進学講習に参加する生徒を増加させる。</p> <p>イ 一つ上をめざす進路志望を勧奨しつつ、生徒の希望進路の実現を支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 進路希望実現率の2%以上上昇 (平成29年度 85.5%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 「$\textcircled{学}$進路実現に関する指導は適切に行われている」85%以上 (H29 84.3%)</p> <p>イ 大学との連携活動回数の増加 55回以上 (H29 53回)</p> <p>ウ 英検受験人数の増加 80名以上 (H29 64名)</p> <p>(3)</p> <p>ア 「$\textcircled{学}$学校は授業以外でも学習する機会(講習会・検定など)を提供している」の3%増加 (H29 77.8%)</p> <p>イ 難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者10名以上 (H29 8名)</p>	<p>(1)</p> <p>アイ キャリアサポートルームの整備及び活用 ($\textcircled{◎}$)</p> <p>進路希望実現率は12月末で88.5% (H29 85.5%) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>(2)</p> <p>ア 「$\textcircled{学}$進路実現に関する指導は適切に行われている」88.2% (H29 84.3%) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>イ 大学との連携活動回数の増加81回 (H29 53回) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>ウ 英検受験人数は4倍以上増加し271名 (H29 64名) ($\textcircled{◎}$)</p> <p>(3)</p> <p>ア 「$\textcircled{学}$学校は授業以外でも学習する機会(講習会・検定など)を提供している」の80.2% (2.4%増加、1年生英検全員受験) ($\textcircled{○}$)</p> <p>イ 難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者5名、国立東京芸術大学1名合格 (H29 8名) ($\textcircled{△}$)</p> <p>●希望する進路実現のためにキャリアサポートルームを有効に活用してキャリア教育に力を入れ、体系的な進学講習や勉強合宿などの工夫をしていく必要がある。</p>

府立枚方なぎさ高等学校

<p>社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立とマナー指導の徹底</p> <p>(2) HRや委員会・生徒会、学校行事の更なる活性化</p> <p>(3) 部活動の活性化</p> <p>(4) 地域連携のさらなる充実</p>	<p>(1) ア 遅刻指導や頭髪・服装指導などを粘り強く行い、基本的な生活習慣を定着させる。 イ 新たに学校指定のセーターを H31 より導入するための準備を進める。 ウ 学年主任会議を新設し、生徒指導や行事などでの学年間の調整を図る。</p> <p>(2) 生徒会が中心となり、ルールを守って行事を楽しむという伝統をつくる。</p> <p>(3) 体験入部等を工夫することで、部活動の加入率をあげ、部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 防災訓練をはじめとして、近隣の小中学校や磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。</p>	<p>(1) ア 年間遅刻者数を 5%以上減少させる。(H29 2105) イ 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 3%増加 (H29 68.8%)</p> <p>(2) 「学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」の 3%増加 (H29 82.6%)。</p> <p>(3) 部活動加入率の 3%増加 (H29 49.5%)</p> <p>(4) 地域活動参加回数の 5%増加 25 回以上 (H29 26 回)</p>	<p>(1) ア 年間遅刻者数は 22.5%減少し、1631 (H29 2105) (◎) イ 「学校生活についての先生の指導は納得できる」 66.3% (2.5%減少) (△)</p> <p>(2) 「学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」 80.3% (2.3%減少) (△)</p> <p>(3) 部活動加入率は 5.7%増加し 55.2% (H29 49.5%) (◎)</p> <p>(4) 地域活動参加回数はほぼ横ばいの 26 回 (H29 26 回) (○)</p> <p>●授業規律の確立や遅刻のさらなる減少にむけて、生徒指導の徹底を図っていく必要がある。</p> <p>●生徒のリーダーシップ養成を図り、生徒会活動や部活動のさらなる活性化を図っていく必要がある。</p>
<p>社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実</p>	<p>(1) 高校 3 年間を通した人権教育の推進</p> <p>(2) 高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みの充実</p> <p>(3) ユニバーサルデザインの授業実践の活性化</p>	<p>(1) ア SNS などにも対応した 3 年間トータルの人権教育を行う イ アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。</p> <p>(2) 自立支援コース設置校としてインクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取組みを充実させる。</p> <p>(3) ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「共に学び共に育つ」教育活動をさらに推進する。</p>	<p>(1) ア 「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の 3%増加 (H29 80.4%) イ 「学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の 3%増加 (H29 75.5%)</p> <p>(2) (3) ・巡回・来校相談、研修・講演回数の 5%増加 (H29 巡回・来校相談 19 件、研修・講演 5 回)</p>	<p>(1) ア 「人権の大切さを学ぶ機会」は 82.9% (2.5%増加) (○) イ 「学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の 80.2% (4.7%増加) (◎)</p> <p>(2) (3) ア 訪問・来校相談 17 件、講演・研修回数 4 回 (H29 訪問・来校相談 19 件、研修・講演 5 回) (△) 神奈川県、北海道、青森県の視察受け入れ、支援教育フォーラムで実践報告 (◎)</p> <p>●生活看護実習室を有効に活用して、人権教育や支援教育に関する取組みをさらに充実させ、支援教育サポート校として北河内地域の教員の専門性の向上に寄与していく。</p>
<p>魅力ある総合学科づくり</p>	<p>(1) 特色ある教育課程の編制を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。</p> <p>(2) パンフレット作りや学校説明会など、広報活動を活性化させる。</p>	<p>(1) 再編 P T を中心にして、職員研修で議論を全体化し、5 つの系列を魅力あるものにする。総合学科再編に向けた役割を明確にすることで、教職員の労働時間の削減をめざす。</p> <p>(2) 再編 P T の広報担当チームを中心にして魅力あるパンフレットを作るとともに、中学校教員や保護者向け学校説明会を実施するなど、広報活動に力を入れる。</p>	<p>(1) (2) ・中学校教員向けなど学校説明会の新規実施 ・2019 年度入試以降の志願倍率 1.1 倍以上をめざす。</p>	<p>(1) (2) ・中学校教員向けの学校説明会を 10 月に実施 (◎) ・2019 年度入試以降の志願倍率 (1.13) 倍 (H29 1.08 倍) (◎)</p> <p>●魅力ある総合学科をつくるため、系列の授業を充実させる必要がある。</p> <p>●多忙な教職員のサポート体制を確立し、時間外勤務の削減に取り組んでいく必要がある。</p>